
研究活動報告

2021年度日本人口学会中部地域部会

2021年度の日本人口学会中部地域部会は、2021（令和3）年12月4日（土）に開催された。Zoomによるオンライン開催ということもあり、聴講者を含め中部地域以外の各地からも多くの参加があった。

報告会における報告者、および報告タイトルは下記の通り。

- 松田茂樹（中京大学）「大都市居住者のUターン意向の規定要因」
- 狭間諒多朗（南山大学）「若年流出者に関する基礎的分析」
- 靳璇（お茶の水女子大学）「中国における既婚女性の労働供給と子育てに関する実証分析—「二人っ子政策」を背景に一」
- 江天瑤（お茶の水女子大学）「夫婦の家事分担の日中韓比較」
- 佐々井司（国立社会保障・人口問題研究所）「コロナ禍のなかで地域人口はどう変化してきたのか？」
- 水落正明（南山大学）"Retirement trajectory and health outcome in Japan"

今回報告のあった“コロナ前”の分析結果が“コロナ後”にどのように変わるのか（変わらないのか）、今後の分析にも期待がかかる。また、中国、韓国をはじめとする東アジア諸国・地域に関する研究においては、急速に変化する国家間関係を踏まえて従来とは異なる視点での比較分析が、今後必要になってくるのではないかと思われる。（佐々井 司 記）

国際シンポジウム「韓国と日本の年金：人口の挑戦と将来の対応」

2021年11月25日（木）、韓国人口学会主催で、国際シンポジウム「韓国と日本の年金：人口の挑戦と将来の対応（International Symposium on the Pensions of the Republic of Korea and Japan: Demographic Challenges and Future Responses）」がハイブリッド開催された。韓国人口学会会長のユン・ソクミョン（尹錫明）氏は、筆者が研究代表を務める厚労科研プロジェクト「日中韓における少子高齢化の実態と対応に関する研究」で昨年講演を行っていただき、その関係でこの国際シンポジウムの企画に協力することとなった。

シンポジウムは、ユン氏と筆者の開会あいさつに続き、日本セッション、韓国セッションにてそれぞれ報告・議論がなされた。日本セッションでは慶應義塾大学石井太教授より「将来人口推計と公的年金財政」、年金シニアプラン総合研究機構坂本純一特別招聘研究員より「年金制度の修正指数と公務員年金への適用」、厚生労働省年金局植田博信数理調整管より「日本の公的年金制度について～被用者年金一元化までの過程～」という報告があり、韓国セッションと合わせ、活発な議論が行われた。

（林 玲子 記）